

「文化の境界を越えて」

ヒュー・スコット

一九七九年五月初旬、故大平総理がワシントンの青年相互理解協会（YFU）の国際本部を訪問されましたことは、私どもの非常な光栄であります。総理が忙しい日程を割いて、わが協会の日米交換学生のグループと意見を交わされたことは、われわれが個人として、「お互いをよく理解し、文化の境界を越えて平和と協力の中で共に生きて行くことを学ぶべきである」という総理の考えを裏書きするものであります。

総理はこの訪問中に、青年相互理解協会が行っている交換事業に支援を表明され、こう言われました。「私は日米間の青年相互理解協会の交換事業の考え方とその成功を喜んでおります。……諸君のような若い方々が海外で学び、外国の家庭に住み、直接に異なる文化を体験しつつ得ている経験は、まことに貴重な勉強上の機会であります」。

大平総理のご逝去は、日本および全世界のひとびとにとって大きな損失でした。総理の言われる「ますます相互依存の度を深め、小さくなりつつあるこの世界」のさまざまな問題に対する卓越した指導力と感度を失ったことは、たいへんに惜しまれるであります。われわれは、青年相互理解協会の援助によってできるような海外のホームステイの経験は、未来の世界の指導者が故大平総理と同じような見識を示すようになることを保証するものであると感じております。必要なのは、次の世代のひとびとが、日米間のこの最も重要な関係を育成強化することにあります。青年相互理解協会における講演の結びの言葉で、総理は、参集した学生のグループに、この

関係をより良くするための仕事をつづけるよう要請して、「こう言われました。「諸君は二十一世紀の指導者になる人々です。私は、諸君が太平洋を渡る友情のかけ橋を強くするものと信じています。」」

青年相互理解協会の理事、世界のスタッフ、ボランティア、参加者を代表して、私は、大平総理のご家族に対して、深甚なるご同情を申し述べますとともに、若い日米の学生諸君の未来の世代が大平氏を範として、わが偉大な二国間の友情と理解のきずなを強化されますよう希望いたします。

（青年相互理解協会理事長）